

教科 家庭

科目	家庭総合	(必修)	授業時数	2 単位
			履修学年	2 学年

目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-----------	---

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
○生涯の生活設計 1 あなたの将来、どうする？ ○青年期の自立と家族・家庭 自立への一歩を踏み出そう 家族・家庭って何？ 将来の自分と家庭を創造する ○子どもの生活と保育 子どもはどう生まれ育つ？ 子どもとどうかかわろう	24	○子どもの生活と保育 これからの子育てとは ○衣生活と健康 衣服の役割 衣服はどうやってつくられている 衣服の計画・管理を知ろう 今後の衣生活を考えよう ○生活における経済の計画 将来に向けて家計を考えよう 将来の経済計画を立ててみよう	30	○消費生活と意思決定 何をどうやって買う？ 消費生活と意思決定 ○持続可能なライフスタイルと環境 未来の地球は大丈夫？ 私たちにできることは何だろう	24

教材
未来へつながる家庭総合 365 (教育図書) 未来へつながる家庭総合 365 マスターノート (教育図書) LIFE 大人ガイド (教育図書)

授業の進め方
<ul style="list-style-type: none"> 生活をさまざまな視点でふりかえり、多様な価値観にふれる。 生涯を見通しながら、自分や家族、地域生活の充実をめざすことを意識する。 協働して課題の解決をめざし、社会の中で生活を創造しつづけることを意識する。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のキーワードを理解し、内容をとらえながら語句の記入ができたか。B 実習課題に取り組めたか。B 考査で 80%を超えて得点することができたか。A 	<ul style="list-style-type: none"> 生活をふりかえり、客観的に分析することができたか。B 多様な価値観に気づくことができたか。B 自分の考えを、他者に伝えることができたか。B 考査の記述問題で、適切な文章表現により得点することができたか。A 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出を期限までにできたか。B 教科書・資料・ノートを準備し、授業に取り組めたか。B 協働して課題に取り組み、思考を深めることができたか。A
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> マスターノート 実習課題 考査 	<ul style="list-style-type: none"> マスターノート 提出課題 考査 レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> マスターノート 提出課題 実習課題 レポート発表

単元別 評価規準

1 生涯の生活設計 1

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のキーワードを理解し、内容をとらえながら語句の記入ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「パートナーに望むこと」について、思考・判断・表現ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書・資料・ノートを準備し、授業に取り組めたか。 協働して課題に取り組み、思考を深めることができたか。

2 青年期の自立と家族・家庭

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。	・「ワーク・ライフ・バランス」につ いて、思考・判断・表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

3 子どもの生活と保育（子どもはどう生まれ育つ 子どもとどうかかわろう）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。 ・乳児模型を使い、衣服の着脱の実習が できたか。	・「親の役割 保護と社会化」につい て、思考・判断・表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

4 子どもの生活と保育（これからの子育てとは）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。 ・妊娠後期をイメージする重りを身に 着ける体験ができたか。	・「子育てを支えるしくみ」につい て、思考・判断・表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

5 衣生活と健康

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。 ・衣服の手入れや衣服の補修につい て実習に取り組めたか。	・「衣服が原因の事故や健康被害」に ついて、思考・判断・表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

6 生活における経済の計画

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。 ・ライフステージ別の費用を、多様な情 報源から調べることができたか。	・「民間保険」について、思考・判断・ 表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

7 消費生活と意思決定

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。 ・金利（手数料）の計算ができたか。	・「消費者の権利と責任」につい て、思考・判断・表現ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

8 持続可能なライフスタイルと環境

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・教科書のキーワードを理解し、内容を とらえながら語句の記入ができたか。	・「Think globally, Act locally」の 取り組みについて、思考・判断・表現 ができたか。	教科書・資料・ノートを準備し、授 業に取り組めたか。 ・協働して課題に取り組み、思考を 深めることができたか。

課程 定時制

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	3	学科	基礎工学科・建築科
----	----	----	------	-----	---	----	---	----	-----------

1. 科目の目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することをめざす。</p> <p>①食生活の多様化、食生活と環境の関わり、食品の栄養的特徴や調理上の性質を理解する。</p> <p>②高齢者の生活や高齢社会の課題を理解し、高齢者を支える社会のしくみについて考える。</p> <p>③持続可能な社会をめざす取り組みについて理解し、参画する意義を考える。</p> <p>④安全で快適な住生活を営むための知識を身につける。家族の状況に応じた住まいの工夫について考える。</p>

2. 使用教科書

新家庭総合 今を学び未来を描き暮らしをつくる（教育図書）家総308

3. 学習の計画

学期	月	学習の内容	考査範囲	予定時数
1 学 期	4月	現代の食生活の課題	期末考査 左記範囲	24
	5月	栄養素と食品のかかわり 調理実習①		
	6月	食品の選び方と安全		
	7月			
2 学 期	8月	高齢者の生活と社会	期末考査 左記範囲	30
	9月	調理実習②		
	10月	支え合う暮らし 社会保障制度		
	11月	調理実習③		
3 学 期	12月	生活設計 持続可能な社会	学年末考査 左記範囲	24
	1月	住まいの安全 住まいと社会		
	2月			

合計 78 時間

4. 評価の方法

①出席状況 ②授業中のコミュニケーション ③考査 ④提出物 により総合的に評価する。
--

5. 学習にあつたての注意とアドバイス

<p>①調理実習では、手洗いを念入りにし、身支度を整える。調理器具を適切に扱い、衛生的で安全な調理を行う。</p> <p>②将来どのような社会で生きていきたいか自問し、社会を築く一人として実生活に結びつけて学ぶようにする。</p> <p>③多様な生き方があることに注目するため、各種の生活情報に触れるようにするとともに、柔軟に考えることを心がける。相互のコミュニケーションを大切にして取り組む。</p>

課程 定時制

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	4	学科	選択
----	----	----	---------	-----	---	----	---	----	----

1. 科目の目標

- ①食事計画・ライフステージと栄養、食品の選択と調理の基本、テーブルコーディネートや食事のマナーについて系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
- ②生活環境や季節に応じて食材を調理し、食生活を豊かに創造できるようにする。

2. 使用教科書

フードデザイン新訂版	実教出版	家庭313
------------	------	-------

3. 学習の計画

学期	月	学習の内容	考査範囲	予定時数
1 学 期	4月	調理の基本	期末考査 左記範囲	24
	5月	だし、味覚効果、食品の食感や温度、 素材の持ち味等、おいしさに関わる要素		
	6月	調理様式と献立		
	7月	調理実習 和風献立、洋風献立、 災害時の食事計画		
2 学 期	8月	食事計画	期末考査 左記範囲	30
	9月	ライフステージと栄養計画 食品ロスと食糧自給率		
	10月	食事の意義と役割 テーブルコーディネート 調理手順の工夫		
	11月	調理実習 中華風献立 行楽弁当 焼き菓子		
3 学 期	12月	食育		24
	1月	調理実習 正月料理 日常の弁当		
	2月			

合計 78 時間

4. 評価の方法

- ①考査②出席状況③実習を含む授業への取り組み④提出課題により総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ①日頃より食生活の充実向上を心がける。
- ②調理実習では、手洗いを適切に行い、身支度を整える。
調理器具を適切に扱い、衛生的で安全な調理を行う。
- ③相互にコミュニケーションをとり、合理的かつ創造的に学習できるよう心がける。

教科担当者 小口 芳子